

奈良工業高等専門学校	開講年度	令和04年度(2022年度)	授業科目	プレゼンテーション英語				
科目基礎情報								
科目番号	0028	科目区分	一般 / 選択					
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2					
開設学科	物質創成工学専攻	対象学年	専2					
開設期	前期	週時間数	2					
教科書/教材	基礎から学ぶ英語プレゼンテーション(朝日出版社)							
担当教員	大北 勢津子							
到達目標								
1. 英語らしい表現パターンを習得し、適切に運用することができるようになる。 2. 自分自身の学ぶ習慣を充実させ、自分自身で「知りたい」ことを探究できるようになる。 3. 読み手や聞き手を納得させるように、論理的科学的に英語で自分自身の考えを表現できるようになる。								
ルーブリック								
評価項目1	理想的な到達レベルの目安 効果的なプレゼンテーションのための基本的なスキルについて十分に理解している。	標準的な到達レベルの目安 効果的なプレゼンテーションのための基本的なスキルについて理解している。	未到達レベルの目安 効果的なプレゼンテーションのための基本的なスキルに関する理解が不十分である。					
評価項目2	効果的なプレゼンテーションのための基本的なスキルを適切に運用することができる。	効果的なプレゼンテーションのための基本的なスキルをおおむね運用することができる。	効果的なプレゼンテーションのための基本的なスキルを正しく運用することができない。					
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	学生自身が必要とする英語表現に出会い、英語での自己表現の方法を一つでも多く蓄積していってほしい。そのため自分で学ぶ習慣をつけることを忘れないでほしい。このプレゼンテーション対策では、英語を学ぶ上での重要事項が多く含まれていることから、授業を通じて一つでも多くの表現を蓄積していってほしい。映画や音楽教材もプレゼンテーション対策として利用することで、英語でのものの考え方を培っていきたい。							
授業の進め方・方法	聴衆を意識し、その聴衆を納得させる「内容の『見せ方』」を、欧米では「大学への授業準備」として高校で叩き込まれる。残念ながら、日本では「言葉を武器」として利用する方法が系統だった教科として確立されず、体験的(主観的)にプレゼンテーションを行っている場合が多い。すばらしい内容を聴衆が求めている『見せ方』であらわせば、決して聴衆は内容を取り違えることなく、発表者の意図も間違なく正確に伝わる。 この「英語プレゼンテーション」の授業では、聴衆を意識し、発表者の意図を間違いなく正確に伝える技術を習得し、それぞれの研究をパワーポイントで発表することを目的としている。							
注意点	関連科目：コミュニケーション英語 学習指針：説得力のあるプレゼンテーションを通して、抜け落ちている基礎的な英語文法力や英単語力を補強していく。 自己学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。英語を利用しなければ、忘れることの方が多い。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。							
学修単位の履修上の注意								
授業の属性・履修上の区分								
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画								
	週	授業内容	週ごとの到達目標					
前期	1stQ	1週 イントロダクション Unit 1: Getting Started (#1)	授業の概要と進め方、成績評価の方法などについて説明する。また、Eye contact / Facial expression / Volumeに関するスキルを理解する。					
		2週 Unit 1: Getting Started (#2)	Eye contact / Facial expression / Volumeに関するスキルを理解し、実践することができる。					
		3週 Unit 2: Voice (#1)	Voiceに関するスキルを理解し、実践することができる。					
		4週 Unit 2: Voice (#2)	Voiceに関するスキルを理解し、実践することができる。					
		5週 Unit 3: Gestures (#1)	Gesturesに関するスキルを理解し、実践することができる。					
		6週 Unit 3: Gestures (#2)	Gesturesに関するスキルを理解し、実践することができる。					
		7週 Unit 4: Q & A Skills (#1)	Q & A Skillsに関するスキルを理解し、実践することができる。					
		8週 Unit 4: Q & A Skills (#2)	Q & A Skillsに関するスキルを理解し、実践することができる。					
後期	2ndQ	9週 Unit 5: Visuals (#1)	Visualsに関するスキルを理解し、実践することができる。					
		10週 Unit 5: Visuals (#2)	Visualsに関するスキルを理解し、実践することができる。					
		11週 Unit 6: Rehearsals (#1)	Rehearsalsに関するスキルを理解し、実践することができる。					
		12週 Unit 6: Rehearsals (#2)	Rehearsalsに関するスキルを理解し、実践することができる。					
		13週 Unit 7: On Stage (#1)	On Stageに関するスキルを理解し、実践することができる。					
		14週 Unit 7: On Stage (#2)	On Stageに関するスキルを理解し、実践することができる。					
		15週 発表（プレゼンテーション）	これまでの学習内容を踏まえ、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。					

	16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	小テスト	発表	相互評価	課題	合計
総合評価割合	30	40	10	20	100
基礎的能力	30	40	10	20	100